

## オットンガエルのポー海へいく

瀬戸内町立古仁屋小学校 二年 村おか まこと

オットンガエルのポーは、おひるねが大すき。いつもおなかいっぱいごはんを食べたあとは、すぐにいい気もちになって、コツクリコツクリおひるねをはじめるのです。

ある日、ルリカケスさんがとんできていいました。「オットンガエルくん、きみはいつもおひるねばかりしているね。」

ポーは、大きなあくびをすると、ねむい目をこすりこすり、ルリカケスさんを見あげました。

「オットンガエルくん、きみは、海をみたことあるかい。」

ポーは、のっそりおき上がると、くびをよこにふりました。

「海は、きみのすんでいるこの川よりも、もっともっと大きくて、ずつとずつと広いんだよ。それに、海の水ってふしぎなあじがするらしいんだ。」

それをきいたポーは、とび上がりました。ポーの目は、まん丸のまん丸です。

「ルリカケスさん、海の水っておいしいの。」

ポーは、あわててたずねました。くいしんぼうのポーは、海の水をのんでみたいと思いました。すると、ルリカケスさんがいいことを教えてくれました。

「ポー、きみのすんでいるこの川と海は、つながっているんだよ。ずつとずつとすすんでいくと、きっと海にたどりつくはずだよ。」

ポーは、こころがワクワクしてきました。ルリカケスさんにおれいをいうと、海をめざして出ばつしました。とちゅうで、くろうさぎさんに会いました。

「こんにちは。ぼく、海に行くんだよ。」  
また、どんどんすすんでいきました。

つぎに、ハブさんにで会いました。  
「こんにちは。ぼく、海に行くんだよ。」

ポーは、どんどんすすんでいきました。  
日がくれて、よるになりました。ポーは、木の木のベットでねむりました。ぐつすりねむりました。よが

あけて、朝になりました。ポーは元氣よく、どんどんすすんでいきました。川のふちで、タナガさんに会いました。

「海は、もうすぐだよ。がんばって。」

タナガさんのおうえんをうけて、ポーは、またどんどんすすんでいきました。どんどんすすんでいたその時です。とつぜんポーのまえに大きな大きな海があらわ

れました。

「ついにきたんだ。これが海なんだ。」

ポーは、うれしくなって、いそいで海にむかってとびだしました。青い青い海、広くて広くて、どこまでもつづいています。

「うわあー、きれいだな。」

ポーはうれしくて、いつまでも海をながめていました。その時、「ザザザーツ、ザブン。」と、小さななみが、ポーにかかりました。

「うわっ、なんだこれ、しょっぱいぞ。」

ポーはおどろきました。そして、ちよっぴりがっかりしました。

ふかいふかい森のおくにかえったポーは思いました。

「やっぱり、ぼくには、ここの森が一ばんき。だって、川の水はとってもあまくて、おいしいんだもの。それに、大きな木が、ぼくをまもってくれるもの。ぼくがおひるねするには、この森じゃなきゃね。」

ポーは、そういいながら、むねを大きくふくらませると、

「オットンクルルル。」

と元気よくなきました。そして、またいつものように、コックリコックリおひるねをはじめました。

